

## 【活動基本方針】

### ■社会背景と JIA

今日の社会では、A I の台頭、IOT の進化により産業構造も変革期を迎えており、それに伴い私達の生活環境も変化の渦中にあります。建築界においても社会ニーズに呼応した多様な発注形態の席卷により、とりわけ建築家の職能基盤が脅かされています。これは同時に社会的職責が問われていることでもあり、建築設計界を取巻く職能環境が変わりつつあります。

昨年、検討が重ねられた「近未来研究特別委員会」の報告では、JIA も建築家も旧来の価値観が通用しない変革の時代を迎え、設計専門であることの優位性や職責を見つめ直す必要性と可能性を分析・示唆されました。そのなか JIA は、わが国唯一の設計専門職能団体として「公益を保護」「公益に寄与」を活動目的に掲げており、変わりつつある時代の様相に寄り添いつつも、常にこの目的を基軸とし活動していくことが求められます。

### ■本部の状況

本部においては、全国単一組織であることを活かし「JIA スクール」を冠としたブランド化など JIA 会員である価値と魅力の創出を見据えた委員会体制の見直しを進めています。

そのほか昨年「SDGs 建築ガイド日本版」の発刊、本年計画している「SDGs 建築フォーラム 2020」。また建築三会で連携した建築士法一部改正など、将来を見据えた活動を展開しています。そのなかで特に全会員の約半数の所属会員を有する関東甲信越支部においては、本部との風通しの良さは必須であり意見調整を図りつつ、より円滑な連携の必要性和責任があると考えます。

### ■支部の状況

支部において、ここ数年、支部の役割、委員会や地域会のあり方を見直す組織論や会員減少に伴う財政面の議論を重ね意見の集約を行ってきましたが、まだまだ継続的な課題として捉えなければなりません。なかでも会員拡大や退会者の歯止めなど会員増強は毎年重点課題でありながら顕著な成果が見えない状況であり、支部としても積極的・具体的な対策が急務です。

### ■支部活動の方向性

支部活動の中心である委員会活動や地域会活動においては、それぞれ積み重ねてきた実績を基に更なる展開を目指します。また現在「北関東学生課題設計コンクール」や「子供空間ワークショップ」など複数の地域会連携活動を推進しています。これは一例ながら、委員会・地域会において活動の立位置を明確にしつつ情報共有や連携を促し、視野の広い展開は効果的であり今後の課題の一つと考えます。

更に、JIA 活動を社会へ効果的に発信し続けることは大切な使命でもあります。一昨年、外に対してわかり易い JIA、内に対して活動の「見える化」を目指して、支部HPを刷新しました。今後は、さらなるHPの活用と多彩な発信手段による戦略的広報を通して、JIA の社会的価値と魅力を積極的に表出し、社会的プレゼンスの拡充を目指します。これは同時に所属会員のメリットにも繋がるものであり、会員への適切な情報提供や研鑽機会の拡充など合わせて会員支援

の充実を推進します。

そして、会員と社会に求められる職能団体として持続可能な支部運営を目指して、以下の通りの活動目標・計画とします。

## 【活動目標・計画】

### 1. JIAの社会的プレゼンスの拡充

- ① 社会に向けた多彩な手段による戦略的広報の実践
- ② まちづくり、保存、災害対策、環境など社会公益活動の見える化の強化
- ③ 実績を活かした公共工事・発注者支援の推進
- ④ 今後の支部大会開催に向けての模索

### 2. 会員サービスの拡充

- ① 新たなブランディング「JIAスクール」の積極的な支部内展開
- ② 「建築家資格制度」「登録建築家」「CPD制度」の周知・啓蒙の推進
- ③ 自己研鑽型（セミナー、見学会など）活動へ参加しやすい環境整備
- ④ 多様化する発注方式や業務環境に関する情報共有の促進
- ⑤ 会員へのタイムリーな建築関連情報提供の促進

### 3. 関連団体等との連携促進

- ① 東京三会への参加と関係団体との連携促進
- ② JIA関連組織の理解と連携促進
- ③ 「知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会」への参画・支援

### 4. 本部活動との連携強化

- ① 本部情報のスムーズな支部内共有の強化
- ② 単一会であるメリットを活かした本部との活動連携の促進
- ③ 「SDGs建築フォーラム」開催への協力・支援

### 5. 地域会活動・委員会活動の活性と連携推進

- ① 委員会活動のミッションや体系の再確認
- ② 地域会活動の活性化に向けての支援
- ③ 委員長会議、地域サミットの効果的運営
- ④ 首都圏課題に対する支部内体制の模索
- ⑤ 法人協力会員との交流促進
- ⑥ 活動の見える化による情報共有・活動連携の推進（支部HPの活用推進など）

### 6. 持続可能な会の運営推進

- ① 会員拡大事業の企画
- ② 次世代を担う若手会員の活動ステージの整備
- ③ 若手会員とシニア会員・フェロー会員の交流機会の増大
- ④ 支部内における協議と意思決定の会議体の明確化
- ⑤ 事務局業務を軽減していく意識強化
- ⑥ 建築家職能を活かした収益事業の模索
- ⑦ 会員減少に耐える財務体系の検討

(以下 2020/6/16 追記)

本年1月の役員会承認以降、コロナ禍によりコロナと共存する社会（with コロナ社会）の到来に伴い、また更にその先の活性化を見据えて JIA 活動のあり方や建築家の職能・業務などの課題についての検討を重点項目として優先度高く以下の通り追加いたします。

#### 7. With コロナ社会における JIA 活動のあり方の検討

- ① これからの JIA 活動や建築家の「職能」を考える。
- ② これからの JIA 活動の「交流」を考える。
- ③ これからの JIA の「財政」を考える。